

令和3年度10月終始業式 校長式辞

おはようございます。

「甲子園」と聞いて皆さんが思い浮かべるのは何でしょうか。

プロ野球・阪神球団の本拠地、または、高校野球の聖地でしょうか。後者のイメージに関連付けて、最近では、高校生の全国大会として「〇〇甲子園」と称する大会が沢山開催されています。

今年、「全国高校生プレゼン甲子園」の第1回大会が開催されました。

全国から409チームがエントリーし、決勝に進んだ10校による決勝プレゼン大会が、8月の末、ちょうど高志高校のフェニックス祭当日に行われました。

福井県からは、工大福井高校、勝山高校、そして我が高志高校の3チームが決勝大会に出場しました。高志高校からは2年生の中川君・西野君チームが出場しました。

栄えある第1回優勝、最優秀賞を獲得したのは、東京都の私立中高一貫校、頌栄（しょうえい）女子学院高等学校でした。コロナ禍で注目を浴びたテレワークに着目し、女性が出産後も仕事を継続し、男性も育児参加しやすくなる仕組みを考えて、それを会社に導入するプロジェクトを提案しました。

プレゼンの内容はもちろん、話し方、ボディランゲージ等のスキル、チームワーク、また質疑応答も、決勝進出者の中で群を抜いていた印象があります。

決勝プレゼンは、インターネットで視聴することができます。ぜひ、「プレゼン甲子園決勝」で検索して、見てみてください。

違う話題を挿入します。

先週の土曜日、10月2日に、本校で「AI教育プログラム」の集中講座が開かれました。高校1、2年生と高志中学生、計26人が参加してくれました。

ソフトバンク株式会社の協力により、AI教材やロボットのPepper君が無償提供されて、参加した生徒の皆さんは、丸1日かけて、AIについての基礎的学習、AIツールの実習を行ったあと、AIによる社会問題の解決策の提案を行いました。

全国で7校の特別協力校の生徒だけが経験できる講座でした。

ところで、プレゼン甲子園決勝に残った福井の3チーム、AI教育プログラムの講座の社会問題を解決する提案に共通することがありました。

それは、とても真面目な提案、お行儀のよい提案だったということです。福井の県民性かなとも思いました。

私の個人的な考えですが、社会を変える、これまでの枠組みを変えるときには、最初はもっと大胆な提案、野心的なアイデアのほうが、様々な人々による対話や検討を経たあとに、面白いものが出来上がりそうな感じがします。

インターネットが世界中の人々をつなぐ時代になって、以前はその存在すら認知されなかった品物が売れるようになり、以前は相手にされなかったアイデアが支持や共感を得られるようになってきています。

毎回のようには話をしますが、高志高校は、「国際社会および地域社会に貢献するリーダー」を育てようとしている高校です。

生徒諸君には、高志高校、大学や大学院で身に付けた知性や行動力でもって、世の中の困っている人を助け、今よりも一歩進んだ幸せな社会を作ることに貢献してほしいと思っています。

高校を出てから、大学を出てからそうするというのではなく、1年生が聴講したグローバル講演会の講師、露木志奈さんの言葉を借りると、「大人になるまで待つことなく」、高志高校にいる間にも、当事者意識をもって、今より少し社会を良くする、今より少し学校を良くすることに貢献してほしいです。

プレゼン甲子園決勝大会で優勝した、頌栄女子学院の女子生徒は、女子高の生徒だったこともあるのか、出産に伴って女性が離職を余儀なくされる社会問題を解決したいという問題意識からスタートし、性別を問わず、誰もが仕事と家庭のバランスの取れた生活ができるようにするテレワークプロジェクトを構想しました。すぐには実現できないかも知れませんが、彼女たちのアイデアに投資する企業が出てくることで、彼女たちが会社を立ち上げることも可能になるのではと思わせてくれました。

プレゼン甲子園予選大会に出場した生徒諸君、AI教育プログラムの集中講座に参加した生徒諸君は、「〇〇しなければならない」という消極的な思考ではなく、「〇〇することがで

きる」「〇〇したら面白いのではないか」という積極的な思考で、行動を起こしてくれました。とても素晴らしいことだと思います。その気持ちと行動力を称えたいと思います。

行動を起こす生徒と行動を起こさない生徒の間には、しばらくすると、大きな差が生まれます。

その上で、私は欲張りなので、行動を起こす生徒諸君に、同じ行動を起こすのであれば、せっかくのその行動を、将来の日本社会や世界、日々の高校生活を過ごしている学校という社会を、今よりも一歩良くすることにつなげる、そのような、次の行動につなげていってほしいと願っています。

高志高校の生徒諸君は、他の高校に比べると、行動を起こすだけの高い学力や気力、人間性が身に付いていると思います。それを、自分だけの幸せのためだけでなく、自分を取り巻く人々の幸せのためにも使ってください。

昨年12月の全校集会でお話した「Nobless Oblige」という考え方です。「Nobless Oblige」という言葉を忘れてしまった人は、覚えている友達や先生から教えてもらってください。

最後に、学年別にエールのことばを送ります。

3年生諸君。これから模擬試験が続きます。厳しい判定が返ってきて、これまでに経験したことのないストレスを抱えるかも知れません。

そういうときは、「しなやかで強かな心の強さ」「レジリエンス」がものを言います。ものごとのプラスの面に目を向け、思考を健康に保ち、基礎に立ち返り、教科書や授業を大切に勉強し、積極的に先生方に質問や相談をしましょう。

新型コロナの収束が見通せないこともあって、昨年度に続いて全国的に安定志向に傾くことが考えられますが、こういうときこそ、志望校貫徹、挑戦する姿勢を持ちましょう。

安易にA判定・B判定が出る大学に意識を向けることなく、A判定・B判定にふさわしい学力を身に付けた自分になるための、愚直な、それでいて戦略的な、努力を続けてください。

教室をレジリエンスに満ちた空間にしましょう。明るく元気な雰囲気、それでいて、真剣に学びに向かう空気に満ちた空間にして、友達と励まし合って、みんなの力で、大学入学共通テスト、個別試験対策をすすめましょう。

今後、総合型選抜、学校推薦型選抜の本番を迎える生徒もいると思います。7月9日、若葉食堂で行った「小論文ガイダンス」で聞いたとおり、「適切に周囲に支援を求めて」厳しい本番を乗り切ってください。

1、2年生諸君。1年後、2年後を見通して、適切に文理選択、類型選択、科目選択をしましょう。最後は、責任をもって、自分で決断しましょう。自分で決めないと、あとあと良くない事態に遭遇したときに、それを他人のせいにしてしまいがちになります。ここぞというときの頑張りがきかなくなります。

何かを選ぶことは、何かを捨てることと同じです。覚悟を決めて選択し、その結果の責任を自分で背負いましょう。

令和3年度の後期の6か月で、君たちが逞しく成長することを願っています。

以上で、私の終始業式の式辞とします。